



90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	番号 ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしゃ
<p>見せばやな雄島のあまの袖だにも みせばやなおじまのあまのそでだにも</p>	<p>玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば たまのおよたえなばたえねながらへば</p>	<p>難波江の蘆のかりねのひとよゆゑ なにわえのあしのかりねのひとよゆゑ</p>	<p>村雨の露もまだひぬ榎の葉に むらさめのつゆもまだひぬまきのはに</p>	<p>嘆けとて月やは物を思はする なげけとてつきやはものをおもわする</p>	<p>夜もすがら物思ふころは明けやらで よもすがらものおもうころはあけやらで</p>	<p>ながらへばまたこの頃やしのばれむ ながらえばまたこのごろやしのばれん</p>	<p>世の中よ道こそなけれ思ひ入る よのなかよみちこそなけれおもいいる</p>	<p>思ひわびさても命はあるものを おもいわびさてもいのちはあるものを</p>	<p>ほととぎす鳴きつる方を眺むれば ほととぎすなきつるかたをながむれば</p>	番号	上の句	下の句	作者
<p>濡れにぞ濡れし色はかはらず ぬれにぞぬれしいろはかわらず</p>	<p>忍ぶることの弱りもぞする しのぶることのよわりもぞする</p>	<p>みをつくしてや恋ひわたるべき みをつくしてやこいわたるべき</p>	<p>霧たちのぼる秋の夕暮 きりたちのぼるあきのゆうぐれ</p>	<p>かこち顔なるわが涙かな かこちがおなるわがなみだかな</p>	<p>閨のひまさへつれなかりけり ねやのひまさえつれなかりけり</p>	<p>憂しと見し世ぞ今は恋しき うしとみしよぞいまはこいしき</p>	<p>山の奥にも鹿ぞ鳴くなる やまのおくにもしかぞなくなる</p>	<p>憂きに堪へぬは涙なりけり うきにたえぬはなみだなりけり</p>	<p>ただ有明の月ぞ残れる ただありあけのつきぞのこれる</p>	番号	上の句	下の句	作者
<p>殷富門院大輔 いんぷもんいんのたいふ</p>	<p>式子内親王 しよくしなしいんのう</p>	<p>皇嘉門院別当 こうかもんいんのべつとう</p>	<p>寂蓮法師 じやくれんほうし</p>	<p>西行法師 さいぎようほうし</p>	<p>俊恵法師 しゅんえほうし</p>	<p>藤原清輔朝臣 ふじわらのきよすけあそん</p>	<p>皇太后宮大夫俊成 こうたいごうぐうのたいぶしゅんせい</p>	<p>道因法師 どういんほうし</p>	<p>後徳大寺左大臣 ごとくだいじのさだいじん</p>	番号	上の句	下の句	作者